

# 県央地区における水田フル活用・経営複合化の推進について

県央農林総合事務所

本県ではこれまで主食米の需給調整のため、水田で麦や大豆を中心に作付けの転換を進めていますが、湿害に比較的に弱いことから、湿田が多い当地区ではあまり導入が進んでいません。

一方、園芸品目においては、ブロッコリー、かぼちゃ、白ねぎを水田での作付け転換推進品目として産地化を図っていますが、園芸品目は労力がかかり作付け規模の拡大に限界があるため、主食米の面積減少分をカバーすることは困難です。

加えて、昨今の米価下落や資材費高騰の影響により、昨年12月に集落営農組織を対象として実施したアンケート結果から、所得確保に対する危機意識が高まっていることがわかりました。

このため、これまで以上に農業者の所得確保を図るよう、当事務所の普及指導員がJA担当者と共に粘り強く検討を重ねた結果、湿田であっても主食用米以外の品目を作付けし、所得確保できるモデルを作っていくことについて合意形成を図り、今年度は大麦で単収向上を図ることを目標に掲げました。

このような活動を通じて、県・市町・JAの担当者による当地区の水田フル活用の在り方を議論する機運が醸成され、今年5月27日に県央地区水田フル活用推進会議を初めて開催するに至りました。

会議では、単収が低い大麦に関しては排水不良対策の新たな技術導入についての検証を今年度新たに実施することや、モデル実証として既に導入されている園芸品目の栽培面積や栽培技術の課題、経営試算について共有するなどの取り組みを開始しています。

年度末には、関係機関でモデル実証の結果について評価会を行うこととしており、当地区に適した水田フル活用の推進方針を検討し、生産者の所得向上に資する提案や、技術指導等の支援を継続していきたいと考えています。



県央地区水田フル活用推進会議



サブソイラーによる大麦圃場における排水対策のモデル実証

問い合わせ先：農業振興部（076-239-1751）